

Manggha Museum 代表の北海道視察旅行～報告とお礼～

クラクフ市にある日本美術技術マンガ博物館 Manggha Museum とジョーリ市立博物館は、2018年にブロニスワフ・ピウスツキおよび、アイヌ民族と文化に関する彼の研究をテーマとする展覧会を開催する準備を進めています。流刑囚にして優れた民族学者であったブロニスワフは、極東、すなわちサハリンと北海道の諸民族と文化を研究し、世界で最も偉大な民族学者の一人に数えられますが、ポーランドではいまだ未知の人です。1903年のブロニスワフの北海道旅行と彼のアイヌ民族研究の成果の大部分は、いまだに、井上紘一教授や Alfred F. Majewicz 教授など、この問題に興味をもつ日本とポーランドの専門家と、いくつかの博物館のみが関心をもつに留まっています。

2018年秋に展覧会とシンポジウムの開催が計画されています。クラクフ市における展覧会では、主にブロニスワフ・ピウスツキの人柄と、サハリンと北海道の諸民族に関する彼の研究(コレクション)に、ジョーリ市の展覧会では民族学的側面に、焦点をあてます。マンガ博物館では同時期に、このポーランド人流刑囚・民族学者を記念する国際学術シンポジウムが開催されます。また、スレユベクのユゼフ・ピウスツキ博物館の後援による(ユゼフの曾孫娘 Danuta Onyszkiewicz のウェブサイト上での協力と、Anna Shimomura(ワルシャワ美術大学(メディアアート)、Krzysztof Wodiczko の指導のもと卒業論文を執筆)のプロジェクトが予定されています。

ブロニスワフ・ピウスツキの研究は、疑いもなく、アイヌ民族の芸術と習慣の保存に貢献しました。ブロニスワフの歴史と業績は、2019年のポーランドと日本の国交百年にふさわしい事業です。さらに2018年はブロニスワフの没後百年にあたります。展覧会と国際シンポジウムの計画は、日本におけるポーランド外交の歴史の重要な一コマとなり、両国の国交百年記念プログラムの一部となるでしょう。

展覧会と国際シンポジウムの準備のため、マンガ博物館を代表して私(Nowak)と同僚の Anna Król

学芸員が2月4～9日に北海道に滞在しました。年会と懇談のプログラムは、ポーランド広報文化センターが北海道ポーランド文化協会の協力を得て作成しました。2月5～7日にはセンターのミロスワフ・ブワシチャク所長とマリア・ジュワフスカ副所長が同行しました。主な訪問先は以下のとおりです——国立アイヌ民族博物館(2020年開設予定)設立準備室主幹の佐々木史郎博士、白老町のアイヌ民族博物館(2013年にポーランド政府が寄贈し除幕式が行われたブロニスワフ・ピウスツキの胸像を保管)の村木美幸専務理事、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の森岡健治館長、萱野茂二風谷アイヌ資料館の萱野志朗館長(志朗氏の父、茂氏は平取町の2博物館のコレクションの収集者)、北海道博物館の小川正人アイヌ民族文化研究センター長、北大植物園(北方民族資料室、バチューラー記念館[1903年にブロニスワフが滞在])、北大総合博物館(有名なピウスツキのロウ管のレプリカと再生された音源を展示)。

そのほかにも、大学の名誉教授やポーランドと日本の友好活動に熱心に取り組むすばらしい方々とお会いし、北海道滞在中ずっと、たいへんな献身とご援助を賜りました。私たちはこれからも白老と二風谷や、北海道のすばらしい冬景色を思い起こし、井上紘一教授、安藤厚教授、そして特に白老、二風谷を案内して下さった尾形芳秀氏について語り合うことでしょう。

雪まつりの時期に札幌を訪問できて幸運でした。おかげさまで国際雪像コンクール参加の Snow Art Poland チームにお会いできて、旅の価値も高まりました。さらに、北海道の食やすばらしいサッポロ・ビール、そしてなによりも素敵な人々を思い出し、これからも賛嘆しつづけることでしょう。

最上のおもてなしすべてに感謝いたします。

日本美術技術マンガ博物館副館長

カタジナ・ノヴァク Katarzyna Nowak

<http://manggha.pl/>



(左から) 白老町のアイヌ民族博物館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、萱野茂二風谷アイヌ資料館、北海道博物館にて